



## 3年の今だから、進路交流会 ～未来の不安を希望にかえて～

12月3日(木)に、3学年ではLHRを利用し、進路ガイダンスが行われました。本校の進路志望は、就職と進学が半々で、現在全体の約8割が合格や内定を決めています。しかし、まだ進路未決定の人はもちろん、決まった人も、これからの将来に不安を抱えています。そこで3学年では、進路未決定者、進路決定した就職の業種や進学先の学校別や系統別に、数人単位のグループ分けをして、お互いの悩みと希望を話し、同級生として助け合いの意識を持ってもらうきっかけづくりを行いました。

基調講演と、まとめは私の役目。社会人として幸せな人生を送るために、今何をしなければならないか。反対に同じ学校生活を送っている仲間に対し、絶対避けてほしいことはなにかを話しました。

そのあと担任のK先生の進行で、グループ別のミーティングタイム。最後の各グループ報告でも、お金のことや新しい人間関係、授業や仕事の不安、住宅など新環境への不安などの報告とともに、積極的な今後の楽しみや抱負が生き生き語られました。当初予想したよりも、にぎやかに話し合いが進み、今後の明るい展望がみんなでも共有できた良い機会になりました。



将来の不安と希望を共有



活発な話し合い内容を報告



大胆な抱負に会場大爆笑

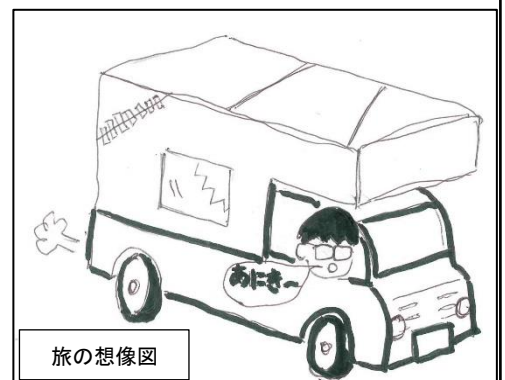
### 困ったお話(その16) (～根本的な誤解?～)

1日の仕事を終え職員住宅へ戻ると、私はよく過去の映画や音楽のDVDを観る。最近観たものの中で、特に心に残る映画があったので紹介しよう。それはデビット＝リンチ監督の「ストレイトストーリー」だ。

主人公のアルヴィン＝ストレイトは73歳の老人。ある日彼は隣の州に住む兄が病気で倒れた知らせを聞き、見舞いに行こうと決心する。実は、彼は若いころのケンカ以来、兄とは絶縁状態になっていたのだ。さて決心したものの、彼は目が悪く自動車の運転ができない。また腰も悪く、杖なしには立ってられないほどである。しかし頑固者の彼は同居の娘の心配をよそに、時速8キロの芝刈り機に乗り、自作したおんぼろのキャンピングカーを牽引して、560km離れた兄のもとへ1ヶ月以上の旅に出た。

無謀ともいえる行き当たりばつりの旅。当然、道中さまざまな事件が起こり、いろいろな人たちと心の触れ合いをしていく。それらを通して、彼の人生が浮き彫りになり、兄との再会を迎え感動がピークになる。私は、実話を再現したこの映画を観て、涙が止まらなかった。そして、「よし、私も旅に出て兄に会おう」と涙をぬぐい決心した。

私は、芝刈り機は持ってないが軽トラがあるので、荷台に自作のキャンパーを載せよう。ところが兄はいるものの、都合が悪いことに仲は良いし、困ったことに元気だ。また駒ヶ根市に住んでいるので3時間あれば着いてしまう。「やあ」「おう」で終わる再会は感動がなさすぎる。そのことを妻に話したらこう言われた。



旅の想像図

「あなたは根本的に誤解している。」